

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会
社会水文学小委員会
(第25期・第4回)

議 事 要 旨

1. 日 時 令和4年6月8日(水) 13:00~15:00

2. 会 場 遠隔会議

3. 議 題

(1) 前回議事録の確認

- 前回議事要旨を確認した。

(2) 橋本委員からの研究報告

- 自身の研究の内容と社会生態システム学の発展過程について報告いただいた。
 - Folke と Berkes (1998) の SES モデル→Ostrom (2009)、McGinnis&Ostrom(2014)
 - 社会生態システム学のフレームと社会水文学の類似性・応用可能性を検討するとともに、生態系・環境系の方法論からみたときに社会水文学で抜けている手法があるのではないか？
 - Cumming et al. (2014) : 緑のループ (農耕社会) から赤のループ (工業社会)
 - 人と自然のつながりに関する仮説→「人と自然の関係」を測ることが可能か？
Nature-Relatedness(NR) scale→自然の多元的な価値評価 (pluralistic valuation)
 - 自然の多元的な価値評価: 代替不可能 (内在的価値) / 代替可能 (道具的価値)
 - 景観の単純化 (Landscape simplification)
- 報告をもとに以下の点について議論を行った
 - 「遠い水と近い水」論と「景観の単純化」の議論との親和性。自然への関心から行動そして景観へのフィードバックについて
 - 関係価値 (自然と人間の関係) とソーシャルキャピタルの理論的な関係性について
 - Intrinsic や Relational な価値評価の重要性
 - 3 つ価値 (内在的価値、関係価値、道具的価値) の相互関係について、特に質的な研究のなかでの議論が進んでいる
 - 社会水文学と社会生態システム学の融合、その中でも特に「水」の扱いについて。
 - 生態における水の扱いについて、生態系と水を一体として捉えるべきか？問題認知の問題ではないか？
 - 天然資源管理モデルにおけるインフラなどの技術 (Ostrom らの研究) の関係をどのように考えるか？研究者の問題意識がフレームとして集約されている→本委員会の問題意識は何か？

(3) 飯泉委員からの研究報告

- 時間の関係上、次回委員会にて続きをご報告いただくことになった。

- 沖先生のご発表を9月以降に願います。

(4) その他

- IAHS 会議での議論の様子について中村委員より報告があった。
 - 世界と日本の研究の Gap よりも分野間の知識の Gap の方が大きい。世界と日本、分野という2軸が存在する。
 - 認知などの評価が不足している。
 - 国際学会ではアプローチの違いが存在する。文系と理系の壁ではなく、「変数思考と実践思考」に別れている。実践思考では具体的な観察による関係性を見出す手法。変数思考では自然系と社会系では大きな差はない。社会系では実践思考が先行している。「変数思考と実践思考」の接続をどのように設計するかが重要ではないか？教育の問題でもある。

4. 配布資料

なし